

石炭の倉庫業



周南バルクターミナル(株)



↑三笠社長

顧客満足・安全第一が
モットーです！

↓アンローダー



↑スタック&リクレーマー



晴海埠頭の先端に位置する周南バルクターミナル(株)は、周辺のコピナート企業の出資で設立し、2012年から本格創業を始めた県内有数の石炭の貯炭場です。設備や将来について、三笠社長にお話を伺いました。取材：大下

■ DATA

【住所】周南市晴海町 8 番
【HP】 <http://www.shunanbulk.jp>
【TEL】 0834-34-2031
【FAX】 0834-33-3576

【設備】 船から石炭を陸揚げするアンローダーは 1 日 3 万トン、船積みするシップローダーは 1 時間 2,000 トンの処理能力があります。また、メリック^{ひょうりょう}秤量により、ベルトコンベアで積み込みながら出荷量が計測できるので、処理時間の短縮が可能になりました。

【貯炭場】 石炭は、主にオーストラリアとインドネシアから輸入されます。面積 20ha、貯炭量 100 万トンの貯炭場に、スタック&リクレーマーで石炭を 15m の高さにまで積み上げます。散水や雨水などを一箇所に集め再利用し、汚れた水が海や外部に流出しないようにしています。また、磁選機を使用し、金属等の異物が混ざらないよう細心の注意を払っています。

【産業観光ツアー】 商工会議所が主催する、産業観光ツアーでの見学コースになっています。「子どもたちには、石炭の山や大きな船を見て、海や港、そしてこの周南の街にもっと関心を持ってもらいたい。」と三笠社長は話されます。

【将来】 「周南バルクターミナル(株)」の活動が、地域の雇用を拡大し、地域産業の国際競争力強化につながると評価され、平成25年度「ふるさと企業大賞」を受賞しました。現在は貨物量が8万トン～9万トンを輸送できるパナマックスという大きさの船しか入港できませんが、徳山下松港が国際バルク戦略港湾に認定されたこともあり、将来的には14万トン～20万トンを輸送できるケープサイズの大船の入港も可能になる予定です。